



学校だより

令和3年10月29日
横浜市立南本宿小学校
校長 西尾 琢郎
No. 549

それが好き」な人との出会いと学び

児童支援専任 教務主任 菊池 卓史

朝、校門近くで校長とともに子どもたちの登校を見守った後、昇降口付近まで戻って来ると、黄色いカバーのランドセルを背負った1年生が2人、植え込みのある花壇を覗き込んでいました。手には何かを持っていて、花壇の土を素手で掘っています。

「どうしたの？何か見つけた？」と声をかけると、手に持っていたダンゴムシを見せてくれました。どうしてこうも、ダンゴムシや昆虫は低学年の子どもたちの心を鷲掴みにするんだろうと思っていると、その子はダンゴムシとワラジムシの違いについて説明してくれました。

とても熱心に話してくれるのを聞きながら、大人も子どもも、興味をもったことには自然と詳しくなるものだなと改めて思いました。大人だって分からないことがあったら調べたくもなります。近くにいる詳しくそうな人に聞いたり、昆虫図鑑で調べたり。今ならスマートフォンなどで調べる方法もありますね。

「好きこそものの上手なれ」とか、「主体的な学び」とか、色々な言葉で表されますが、やってみて「面白い」とか「楽しい」と感じる事が、学習ではとても大切なことです。きっかけは様々で、色々な要素がありますが、「それが好き」な人に出会うほど、そう感じる可能性は高くなるのかもしれませんが。なぜかと言えば、その魅力を知っているからです。コロナ禍のため、対面が難しく、オンライン上で参加していただくことも多くなっていますが、学校外の方々にも授業に参加していただくことは、その出会いが子どもたちにとって、よい刺激になっています。

ご存知の通り、学校で学ぶ内容や身につけていきたい力は時代に合わせて変わってきています。しかし、昔も今も、子どもの時に「面白い」「楽しい」と思ったことは、大人になっても好きで、「もっと知りたい、学びたい」と思えることが多いのではないのでしょうか。客観的に見て、自分が得意だったとしても、「嫌いなこと」は長続きしない気がします。学ぶ内容や、それをすることの面白さや楽しさ、本当の魅力に触れたからこそ、自分から学びたくなるのではないかと思います。

そのためには、教師自身も「面白い」「楽しい」と思う授業を創り、子どもたちが様々な「学ぶ楽しさ」を感じられるような環境をつくっていくことが大切なのかと思います。子どもたちにとって、より良い学びの場をつくっていけるよう、保護者の皆様や地域の皆様と協力し、努力していきたいと思っています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。